

＜各教科等の指導の重点の見方＞

今年度の各教科等の指導の重点には、「問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために」の欄を設けました。2ページに掲載の全体構想図にある【授業づくりの6つのポイント】のうち、各教科等で重視したいポイントを2つ選び、具体的な手立てについて示してあります。

【授業づくりの6つのポイント一覧】

ポイント1	単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫
ポイント2	ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計
ポイント3	必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫
ポイント4	思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実
ポイント5	思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上
ポイント6	学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

教科	算数・数学 (小・中)
指導の重点	努力事項
指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、子どもの実態に応じて指導計画を改善する。 子どもの実態や系統性を踏まえて、軽重を付けた指導内容の重点化を図る。 適切な学び直しを意識した年間指導計画を作成する。 問題解決的な学習を重視し、思考力、判断力、表現力等を育成する。 適切に習熟の機会を設け、知識技能の定着を図る。
指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが学習の主体者となるために、子どもの問いを引き出す課題設定の工夫をする。 思考の共有と吟味をする学び合いの場を設け、知識及び技能の確かな定着や数学的な考え方の育成を図る。 子どもの考えの数学的な価値を見取り、適切に価値付けながら授業展開に生かしていく。 ICT機器の活用を図り、実感を伴った理解を促す。 学習内容を振り返りの場を位置付ける。
評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> ねらいが達成された具体的な姿を明確にし、子どもの言葉を価値付けながら、指導と評価の一体化を図る。 定着確認シートを積極的に活用する。 評価規準や「育てたい力」を、子どもの具体的な姿として明確にする。 家庭学習との接続を図りながら補充・補完を充実させる。

◎… 特に重点的に取り組んでいただきたい項目です。下欄の授業づくりのポイントと関連しています。

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

※は参考文献等

授業づくりのポイント3 (【参考資料】確かな学力の向上のために) P9)
必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

◎ 子どもが学習の主体者となるために、子どもの問いを引き出す課題設定の工夫をする。

- 生活場面から問題を取り上げたり、操作を伴う算数・数学的活動を設定したりして興味関心を高め、事象に対して注目する視点を与えることで、疑問を感じさせ「問い」をもたせていく。また、「具体物」や「実演」、「ICT」を活用し提示方法を工夫する。
- 例 単元の学習で風呂に水をためる様子をVTRやコンピュータシミュレーションで提示したり、アニメーションを用いて問題場面の理解を促したりして、変化する場合に注目させ、事象の含む要素をとらえられるようにする。

・ 既習事項を発展させる視点で問いかけするなど、「問い」を引き出す課題提示の方法を工夫する。

例 「できる」「できない」「あれ?」の提示を演出し「どうしてだろう?」を引き出す。

○ 子どもが主体的に活動に取り組む見通しをもたせ方の工夫

- ペアや小集団などで、めあて(学習課題)を確認させる。
- 日常の事象と関連づけて、答えの見積もりを立てさせる活動を重視する。
- レイアウトテストで確認したり、学級の掲示を工夫したり、課題解決に活用できる既習事項を想起させる。

P9… 「【参考資料】確かな学力の向上のために」と関連するページを示しました。

例… 各教科等の手立てに対しての具体例です。

①… 展開例など、順序性があるものについては、丸番号で示しました。

※… 参考にしてほしい文献や資料、ウェブページ等を記載しました。

授業づくりのポイント6 (【参考資料】確かな学力の向上のために) P15)
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ 学習内容を振り返る場を位置付ける

何かが分かって、何が分からなかったのかを自覚させる。

例 ① 学習の見方や方策を用いる適用問題に取り組み、学習内容を再生させることで、どこでつまづいたかを明らかにさせる。

② 板書やノートを振り返り、子どもが主体的につまづきを修正していく。

・ 操作の手順を振り返ったり、どのような性質を使って課題を解決したのかを確認したりすることで学習内容が積み上がっていくことを実感させ、活用や発展の視点を育てる。

例 作図の方法を振り返り、図形の特徴の理解を深める活動

※ 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 中学校 国立教育政策研究所 P9
※ 授業改善ハンドブック「授業をつくる16の視点」 福島県 授業改善研修会 P26,P27

授業づくりのポイント6については、平成28年度の要請訪問の反省などから、平成29年度に重点的に取り組んでいただきたいポイントとして、どの教科にも記載しました。(道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間は除く。)

教科 国語 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 小・中学校9年間の目標及び内容の系統性を踏まえ、付けさせたい力を明確にするとともに、各学校の子どもの実態に応じた指導計画を作成する。	○ 小・中学校9年間の系統性を踏まえて、学習内容、指導事項及び単元の目標を明確にするとともに、子どもの実態に応じて重点化を図った年間指導計画を作成する。 ◎ 単元に合った言語活動を効果的に位置付けた指導計画を作成する。
指導の工夫	○ 子ども一人一人が、日常・社会生活に必要な基礎的な国語の能力を言語活動を通して確実に身に付けることができるよう指導方法を改善する。	○ 「A話すこと・聞くこと」の領域では、日常・社会生活と関連させた話題を適切に取り上げ、学習したことが日常・社会生活に生きて働くよう配慮し、指導の効果を高める。 ○ 「B書くこと」の領域では、相手や目的、意図を明確にし、指導事項の構成に応じて、文章を実際に書く活動を多く設定する。 ○ 「C読むこと」の領域では、自ら課題を解決するとともに、主体的な思考・判断を伴う学びを充実させるために、学習過程を明確にする。また、読書活動を進めるに当たっては、読む目的を明確にし、子どもの読書意欲を高め、読書活動に主体的に取り組む態度を育てる。 ○ 各領域の中に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を適切に位置付け、意図的・継続的な指導に努める。
評価の充実	○ 子ども一人一人のよさや可能性を伸ばす指導に生きる評価を工夫する。	◎ 学習課題との整合性を図り、ノートへの記述等多様な方法で本時の振り返りの充実を図る。 ○ 個に応じて言語能力を高めることができるよう、評価の観点や評価規準を具体的に設定し、学習の過程や成果を的確にとらえ、指導の改善に生かす。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3)
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **単元に合った言語活動を効果的に位置付けた指導計画を作成する。**

- ・ 単元で身に付けさせたい力を明確にし、単元全体を見通して最適な言語活動を位置付ける。

例【小4単元構想例】

- ① 小4の「読むこと」の能力を育てるため、物語教材文を使って、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと」について指導する。
- ② 単元に合った言語活動として、「読んだ本のおもしろさを伝える読書新聞作り」を設定する。
- ③ 教材文を用いて読書新聞作りのための読みの視点について理解を深めさせる。
- ④ 単元の終末に並行して読んできた好きな本を紹介する読書新聞を作成させる。

※ 言語活動の充実に関する指導事例集
～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～
【小学校版】P47、48 (平成23年10月 文部科学省)

【言語活動の充実の工夫】

- 新聞記事で育成できる読む能力
 - あくまでも読む能力を育成するための活動
 - ・ 出来事を報道する記事
 - 物語のあらすじを説明する。
 - 場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化、情景を押さえて記事に書く。
 - ・ 解説記事
 - 紹介したい主人公の気持ちの変化などを場面の移り変わりと関わらせて解説する。
 - ・ インタビュー記事
 - 登場人物に架空のインタビューを行い、性格や気持ちの変化をとらえる。
 - ・ 紹介記事
 - 作者や関連する他の本を紹介する。

授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **学習課題との整合性を図り、ノートへの記述等多様な方法で本時の振り返りの充実を図る。**

- ・ めあてに対する学習内容について、板書を用いて振り返り、まとめは自分の言葉でノートにまとめさせる。
- ・ 本時の学び(分かったこと、できるようになったこと)を自分の言葉で説明(再生)させる。
- ・ 友人との交流から得た学びについて、根拠と理由を明確にして文章化させる。
- ・ 言語事項の学習であれば適用問題に取り組みさせる。

教科 社会 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 主体的に社会的事象の意味を追究し、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることができるよう指導計画を改善する。	○ 地域の実態を十分に把握し、地域の社会的事象を取り上げた学習や体験的な学習を指導計画に位置付ける。学習能力の実態や発達の段階に応じて、「適切な課題を設けて行う学習」を指導計画に位置付け、課題を解決する能力を一層培うようにする。 ○ 小・中学校社会科の内容の関連や系統性を踏まえるとともに、「育成する力」を明確にして具体的な事例の適切な選択や指導内容の重点化を図る。
指導の工夫	○ 学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を工夫し、子どもの主体的な学習を一層推進する。	○ 課題を追究したり、考察したりする学習を通して、学び方や調べ方、資料活用の仕方、社会的事象についての見方や考え方を身に付けられるようにする。 ◎ 子ども同士が、調べたことや考えたことを書いたり、説明したりする場、社会的事象の意味や意義を根拠を明らかにして解釈したりする場を設け、言語活動の充実を図る。
評価の充実	○ ねらいが達成された具体的な姿を明確にし、子どものよさや可能性を伸ばす評価を工夫する。	○ 学習の成果だけでなく学習の過程において、取組状況や進歩の様子などを把握し評価することにより、学習意欲の喚起を図るとともに、その後の指導に生かすようにする。 ◎ 相互評価や自己評価を取り入れるなどして、児童生徒が自分のよい点や進歩を実感できる多面的・多角的な評価に努め、学習意欲の向上を図る。

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

※は参考文献等

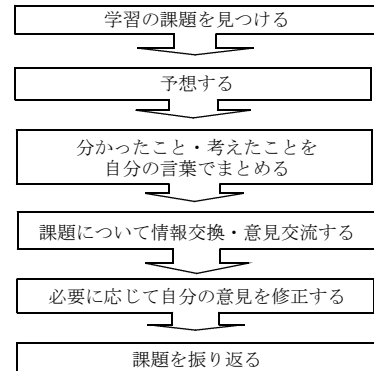
授業づくりのポイント5 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P13)
思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

◎ 子ども同士が、調べたことや考えたことを書いたり、説明したりする場、社会的事象の意味や意義を根拠を明らかにして解釈したりする場を設け、言語活動の充実を図る。

・ 子ども同士の学び合いを通して、結論に向けた理由付けを行い、社会的事象の意味や意義をつかませる活動を取り入れる。

問題解決的な学習のパターン例(右記)における「調べる」「まとめる」「情報交換・意見交流する」を重視する。

- 【例】
- 教科書、資料集、図書等を活用して情報を収集及び選択し、調べたこと、分かったこと、考えたことを子ども一人一人にまとめさせる。
 - ペア学習・グループ学習・一斉など、ねらいに応じて適切な形態で学び合う時間を設定する。その際、発表のみにとどまるのではなく、学びを深めること(新たな発見や気づき、考えの変化や修正、理由付けの話合いなど)につながる交流となるようにする。
 - 学級全体で、本時の学習課題に対する社会的事象の意味や意義を、根拠を明らかにして結論付ける。



教師は、①～③の過程で子ども一人一人の学びを見取り、思考を高める言葉かけをしたり、子どもの考えをつないだりする。

授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ 相互評価や自己評価を取り入れるなどして、児童生徒が自分のよい点や進歩を実感できる多面的・多角的な評価に努め、学習意欲の向上を図る。

・ 学習の過程に視点を置き、感想を書かせたり、発表させたり、自己評価させたりする。

【振り返りの視点としての例】

- 「何が分かったのか」(知識・理解)
 - 「どのようにして分かったのか、考えたのか」(根拠、学び方)
 - 「どうして考えや結論が変わったのか」(学びの変容)
 - 「次はどのようなことを知りたいか、どのようなことをしたいか」(関心・意欲) など
- これらの視点は網羅的に設定するのではなく、焦点化させながら単元の指導計画に位置付けるようにする。

※ 評価規準作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校・中学校 社会】(平成23年11月 国立教育政策研究所)

教科 算数・数学 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、子どもの実態に応じて指導計画を改善する。	○ 子どもの実態や系統性を踏まえて、軽重を付けた指導内容の重点化を図る。 ○ 適切な学び直しを意識した年間指導計画を作成する。 ○ 問題解決的な学習を重視し、思考力、判断力、表現力等を育成する。 ○ 適切な習熟の機会を設け、知識技能の定着を図る。
指導の工夫	○ 算数的活動、数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、子どもの思考過程を十分に見通した授業展開に努める。	◎ 子どもが学習の主体者となるために、子どもの問いを引き出す課題設定の工夫をする。 ○ 思考の共有と吟味をする学び合いの場を設け、知識及び技能の確かな定着や数学的な考え方の育成する。 ○ 子どもの考えの数学的な価値を見取り、適切に価値付けながら授業展開に生かしていく。 ○ ICT機器の活用を図り、実感を伴った理解を促す。 ◎ 学習内容を振り返りの場を位置付ける。
評価の充実	○ ねらいが達成された具体的な姿を明確にし、子どもの言葉を価値付けながら、指導と評価の一体化を図る。	○ 定着確認シートを積極的に活用する。 ○ 評価規準や「育てたい力」を、子どもの具体的な姿として明確にする。 ○ 家庭学習との接続を図りながら補充・補完を充実させる。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント3 (【参考資料】確かな学力の向上のために) P9
必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

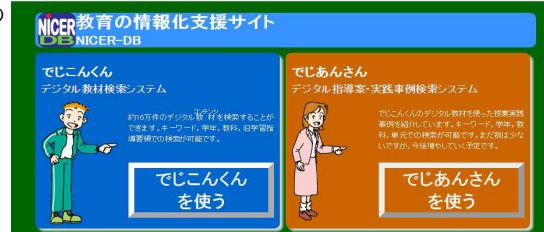
◎ **子どもが学習の主体者となるために、子どもの問いを引き出す課題設定の工夫をする。**

- 生活場面から問題を取り上げたり、操作を伴う算数・数学的活動を設定したりして興味関心を高め、事象に対して注目する視点を与えることで、疑問を感じさせ「問い」をもたせていく。また、「具体物」や「実演」、「ICT」を活用し提示方法を工夫する。

例 比例の学習で風呂に水をためる様子をVTRやコンピュータシミュレーションで提示したり、アニメーションで問題場面の理解を促したりして、変化するものに注目させ、事象の含む要素をとらえられるようにする。

- 既習事項を発展させる視点で問いかけるなど、「問い」を引き出す課題提示の方法を工夫する。

例 「できる」「できる」「あれ？」の提示を演出し「どうしてだろう？」を引き出す。



教育の情報化支援サイト <http://nicer-db.jp/digicon>

- 子どもが主体的に活動に取り組む見通しのもたせ方の工夫
 - ペアや小集団などで、めあて(学習課題)を確認させる。
 - 日常の事象と関連づけて、答えの見積もりを立てさせる活動を重視する。
 - レディネステストで確認したり、学級の掲示を工夫したり、課題解決に活用できる既習事項を想起させる。

授業づくりのポイント6 (【参考資料】確かな学力の向上のために) P15
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **学習内容を振り返る場を位置付ける。**

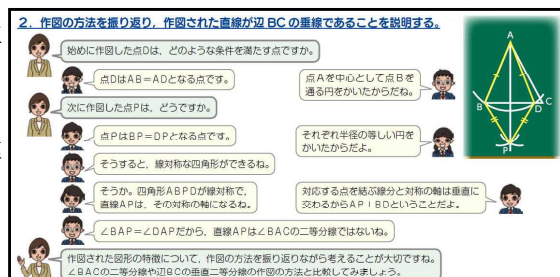
- 何が分かって、何が分からなかったのかを自覚させる。

例 ① 本時の考え方や方策を用いる適用問題に取り組み、学習内容を再生させることで、どこでつまづくのかを明らかにさせる。

② 板書やノートを振り返り、子どもが主体的につまづきを修正していく。

- 操作の手順を振り返ったり、どのような性質を使って課題を解決したのかを確認したりすることで学習内容が積み上がっていくことを実感させ、活用や発展の視点を育てる。

例 作図の方法を振り返り、図形の特徴の理解を深める活動



※ 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 中学校 国立教育政策研究所 P9

※ 授業改善ハンドブック「授業をつくる16の視点」 福島県

授業改善研修会 P26,P27

※ 平成28年度 全国学力・学習状況調査 小学校算数【報告書】 国立教育政策研究所 P26, P31, P36, P39

教科 理科 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 観察、実験に基づく、主体的・探究的な活動を重視した指導計画に改善する。	○ 子どもや学校、地域の実態を踏まえ、身近な自然の事物や現象を対象とした直接体験及びものづくりなどの科学的な体験を充実させる。また、子どもが主体的に観察、実験や課題解決のための探究活動に取り組む時間を十分に確保した指導計画を作成する。 ○ 小・中・高等学校の学習内容の系統性を踏まえた指導計画を作成する。
指導の工夫	○ 問題解決の能力・科学的に探究する能力の基礎と態度を育て、科学的な見方や考え方を育成する指導法の工夫と改善に努める。	◎ 主体的に問題を見だし、課題を追究する力を育成するために、自然に対する興味・関心や知的好奇心、目的意識を高める工夫をする。 ○ 問題解決の能力や態度、分析して解釈する能力の育成を図るため、各内容の特質に応じて観察、実験等の工夫をする。 ○ 自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を育成するために、観察、実験の結果を整理・考察したり、科学的な概念を用いて表現したりする言語活動の充実を図る。
評価の充実	○ よさや可能性を積極的に見だし、伸ばす評価を工夫する。	◎ 子ども一人一人の進歩の状況などを積極的に評価し、学習意欲を高める指導に生かす。 ○ ノートやレポート、ワークシートなど、授業後に教師が確認しながら行う評価を累積するとともに、授業中に見取りによる評価を適切に組み合わせる。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント3 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P9)

必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

◎ 主体的に問題を見だし、課題を追究する力を育成するために、自然に対する興味・関心や知的好奇心、目的意識を高める工夫をする。

【子ども主体の理科学習チェック8項目】

- ① 子どもが主体となって問題を見だしているか。
- ② 問題に正対した予想や仮説の設定をしているか。
- ③ 予想や仮説を検証できそうな観察、実験の計画を立てているか。
- ④ 目的に応じて適切に観察、実験を行っているか。
- ⑤ 観察、実験の結果を適切に処理しているか。
- ⑥ 観察、実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて考察し、自分の考えを表現しているか。
- ⑦ 問題解決を通して、科学的な概念を構築し知識や技能を獲得しているか。
- ⑧ 獲得した知識や技能を活用し、考察しているか。また、獲得した知識や技能を実際の自然や日常生活の中で適用しているか。

※ 理科学習指導プランP2～4 (平成26年3月 福島県教育委員会)

〈体験活動と言語活動が織りなす理科授業の流れ〉



授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ 子ども一人一人の進歩の状況などを積極的に評価し、学習意欲を高める指導に生かす。

- ・ 観察や実験から得られた知識を日常生活に適用し、新しい問題を見いだす場面を設定する。
- ・ 「〇〇日記」などの記録が「単なる感想」でなく「どのように学んだか」を振り返った内容になるよう継続的に指導し、自分自身の成長を実感できるようにする。
- ・ レポートや記録から望ましい学びの姿を積極的に見取り、その後の指導と評価に反映させる。

教科 生 活

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 子どもが自ら考え判断し決定する資質や能力が育つように、2年間を見通した指導計画に改善する。	◎ 幼児教育との接続の観点から、生活科を核としたスタートカリキュラムの作成・改善を組織的に行う。 ○ 学習の対象と繰り返しかかわることができる指導計画を作成する。 ○ 時間的・空間的・心理的なゆとりを大切にし、子どもがじっくり活動できて、気付きの質が高まる多様な学習活動を取り入れた指導計画を工夫する。
指導の工夫	○ 子どもが対象とのやりとりを通して、よりよく問題を解決することができるような学習の展開と過程を重視する。	○ 学習の対象との情緒的なかかわりを重視し、気付きの質を高めて次の活動につなげるようにする。 ○ 子どもが自らの思いや願いを実現し、充実感、達成感、自己有能感、一体感などを感じ取ることができるよう学習活動を工夫する。 ○ 活動を通して獲得した情報を交換する場面や自ら判断し自己決定する場面に授業に位置付ける。
評価の充実	○ 子どもの活動の様子などから、一人一人の思いの実現の程度を把握しながら指導に生かし、自信や意欲につなげる評価を工夫する。	○ 子どもの活動の様子などから、一人一人の内面、活動や体験の広がりや深まり及びその中の気付きなどの進歩の状況を把握し、次の指導に生かせるように工夫する。 ○ 子どもを多様な方法で多面的、総合的に見取り、一人一人のよさや可能性を把握することに努める。 ◎ 子どもの発言やつぶやき、行動、作品などの「表現」を通して子どもの「思考」をとらえる評価に努める。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3)

単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **幼児教育との接続の観点から、生活科を核としたスタートカリキュラムの作成・改善を組織的に行う。**

- ・ 各幼稚園、保育所、認定こども園との連携協力をするとともに、幼児期の遊び体験を単元や授業の指導計画に取り入れる。

【例】 【スタートカリキュラムの作成の手順】

- ① 成長の姿を週や月の単位で明らかにする。
- ② 成長の姿に適合した単元(合科・関連など)を構成し配列する。
- ③ 単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する。
(単元や学習活動を週案の形で具現化していくことが有効である。)

※ スタートカリキュラムスタートブック(平成27年1月 国立教育政策研究所)



授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **子どもの発言やつぶやき、行動、作品などの「表現」を通して子どもの「思考」をとらえる評価に努める。**

- ・ 自分のしたことや見たことを絵や言葉などで表現したり、相手意識や目的意識をもって伝え合ったりする場面を設定する。

【例】 子どもなりの思考の流れを生かし、ストーリー性を意識して紙芝居に表現したり、友達に分かりやすく伝えるために、ニュースキャスターになりきって伝えたりするなど、子どものやってみたいことを生かして、多様な方法で表現させる。

教科 音楽 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 音楽活動の基礎的な能力の育成を図るために指導計画を改善する。	○ 小・中学校9年間の目標及び内容の系統性を踏まえ、学びの連続性を考慮し、各領域及び各分野がバランスよく配置された年間指導計画を作成する。 ◎ 【共通事項】を踏まえて題材で育成する力を明確にし、表現（歌唱・器楽・音楽づくり及び創作）と鑑賞との関連を図る。
指導の工夫	○ 子どもが音楽活動の楽しさや喜びを味わい、主体的・創造的に学習に取り組むような指導方法を工夫する。	○ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質を感受できるような学習活動を組織する。 ○ 音遊びや即興的な表現を取り入れ、音楽づくりの過程を楽しみながら、実際にいろいろな音楽表現を試し、互いの表現のよさを交流するなどして、音楽をつくる喜びを味わわせる。 ○ 子どもの実態に応じて、多様な表現形態を取り入れ、協働的な学習を促し、音と言葉によるコミュニケーションを図る指導を充実させる。 ○ 我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、音楽の多様性を理解することができるような指導を工夫する。
評価の充実	○ 子どもと音楽のかかわりを深め、一人一人の学びを支える適切な評価を工夫する。	○ 評価の観点をもとに、具体的な評価項目及び方法を明確にし、題材の評価規準及び指導と評価の計画を位置付け、それをもとに一人一人の学習状況を多面的に把握する。 ◎ 子どもが思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽の美しさを味わったりする学習過程を組織し、子ども一人一人のよい点や成長の状況などを積極的に評価し、指導に生かす。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業充実のために

授業づくりのポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **【共通事項】を踏まえて題材で育成する力を明確にし、表現（歌唱・器楽・音楽づくり及び創作）と鑑賞との関連を図る。**

- ・ 指導要領や教科書等によって子どもが前学年までに身に付けた知識や技能を把握する。
- ・ アンケートや観察によって、子どもの興味・関心や音楽的諸能力を把握して、教材の選択に生かす。
- ・ 歌唱や器楽の活動を通して学んだ音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を音楽づくりの活動に生かす。
- ・ 音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を歌唱や器楽の表現に生かす。
- ・ 表現の各活動で学んだ音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を鑑賞の活動に生かす。
- ・ 育みたい資質や能力を踏まえながら、関連のある指導内容や教材のまとまりを考慮して、題材構成やその配列に反映させる。

授業づくりのポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **子どもが思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽の美しさを味わったりする学習過程を組織し、子ども一人一人のよい点や成長の状況などを積極的に評価し、指導に生かす。**

- ① 一人一人の子どもの思いや意図を大切に、いろいろと試すための時間を確保する。
- ② いろいろと試しながら自分が気付いたり感じたりしたこと、友達の表現のよさなどを言葉で表現する場面を設け、自己の変容や成長を実感させる。

※ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校・中学校（平成23年11月 国立教育政策研究所）

教科 図画工作・美術

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 授業で育成すべき資質や能力を明確にし、子ども一人一人が個性を生かして、主体的・創造的に学習できる指導計画に改善する。	○ 幼稚園、小・中学校・高等学校の接続や〔共通事項〕を意識し、育てたい資質や能力を明確にして題材を構想できるように指導計画を改善する。 ○ 子ども一人一人のよさが発揮されるように、内容に幅のある題材を工夫し、指導計画に位置付ける。 ○ 表現と鑑賞のバランスと関連性及び〔共通事項〕の視点を生かした題材や授業のねらいの系統性を考慮して、調和の取れた指導計画に改善する。
指導の工夫	○ 子どもが感性を働かせながら、喜びをもって創造活動の基礎的能力を培うことができる授業展開を工夫する。 ○ 校内の鑑賞の環境づくりや美術館等の活用を図るとともに、安全指導を徹底する。	○ 題材を自分のものとして受け止め、表現への思いや願いをふくらませることができるよう、魅力ある題材との出会いを工夫する。 ◎ 表現及び鑑賞における言語活動を充実し、学びをコーディネートしながら豊かな造形的視点をもって対象をとらえることができるようにする。 ○ 表現内容や表現形式・技法・材料などを自己選択・自己決定したり、試行錯誤しながら創意工夫したりする場面を意図的に位置付ける。 ○ 児童生徒の作品の展示場所や飾り方を工夫したり、美術館等の施設や美術的な文化財を活用したりして、表現意欲と鑑賞の能力を高める。 ○ 事故防止のため、道具や薬品等の安全指導と保管に十分留意する。
評価の充実	○ 子ども一人一人が自分のよさを自覚し、意欲的・意図的に創造活動に取り組める評価を工夫する。	○ 〔共通事項〕の視点から活動の中でどのような資質や能力が身に付くかを明確にした評価計画を作成する。 ◎ 表現してきた過程を振り返り、自分のよさを自覚できる評価を工夫する。

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

※は参考文献等

授業づくりのポイント5 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P13)

思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

◎ **表現及び鑑賞における言語活動を充実し、学びをコーディネートしながら豊かな造形的視点をもって対象をとらえることができるようにする。**

- ・ 表現したいテーマやイメージを図や言葉、文章で表して、それらを基にした説明し合う活動などを位置付ける。

- 例
- ① アイディアスケッチ等で構想を練ったり言葉や文章で思い付いたことを整理したりする。
 - ② アイディアスケッチや整理したものをもとに本時の学習内容に関する視点を与え、ペアやグループ、全体で話し合わせる。
 - ③ 友達の話から、自分では思い付かなかったこと、さらによりよい表現になるヒントを取り入れ、表現に生かす。

【言語活動の充実の工夫】

- アイディアスケッチなどに感じたことや考えなどを整理する。
- 話したり話し合ったりする。
- 説明し合ったり価値意識をもって批評し合ったりする。
- 討論や根拠をもって批評し合う。

※ 言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～
【小学校】【中学校】(文部科学省)

授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **表現してきた過程を振り返り、自分のよさを自覚できる評価を工夫する。**

- ・ 自分の表し方の変化や友達の表現のよさをどのように取り入れたかなど、友達とかわりながら表現してきた過程を振り返ることができるようにする。

- 例
- 題材の終末では、材料や表現技法、完成した作品の振り返りだけでなく、試行錯誤する中で、自分の迷いや解決した喜び、感じ取った造形的なよさ等を記載できるような学習カード(「表現の足跡」「表現物語」等)を工夫する。

教科 体育・保健体育

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 1 2年間を見通しながら領域構成と内容を踏まえ、バランスのとれた指導計画を作成し、基礎的・基本的な内容の確実な定着と体力の向上を図る。	◎ 学習内容が確実に定着できるように（2学年をひとまとまりにした、運動の取り上げ方を一層弾力化した）指導計画を作成する。 ○ 次のことを踏まえて、体力向上推進計画を作成・実践する。 ① 新体力テストの結果を踏まえ、自校の課題を明確にする。 ② 具体的で組織的な解決策を位置付ける。 小：運動身体づくりプログラムの共通実践、業間運動の工夫など 中：運動の特性に応じた補強運動の工夫、部活動の工夫など
指導の工夫	○ 主体的な学習を通して生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するよう指導方法の改善充実を図る。 ○ 保健・安全指導の充実を図り、事故を防止する。	【運動領域・体育分野】 ○ 子どもの発達の段階を考慮し、各運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識等がバランスよく身に付くように、指導内容の整理と体系化を図る。 【保健領域・保健分野】 ○ 保健学習において、思考力・判断力等の育成に向けた多様な指導方法（専門性を有する教職員とのティームティーチングや課題学習など）を工夫する。 ○ 場の安全を確かめたりや用具の扱い方を指導したりするなどして事故防止に万全を期すとともに、事故発生時に十分な対応ができるよう連絡体制や救急体制を定期的に確認する。
評価の充実	○ 目標の実現状況を的確に把握し、指導の充実を図る。	◎ 1時間に評価する観点を1～2項目に絞り、単元全体で各観点をバランスよく評価できる評価計画を作成する。 ○ 適切な評価とつまずきのある子どもに対しての具体的な支援ができるように、目標を実現した「子どもの具体的な姿」を想定して指導と評価の一体化を図る。

※は参考文献等

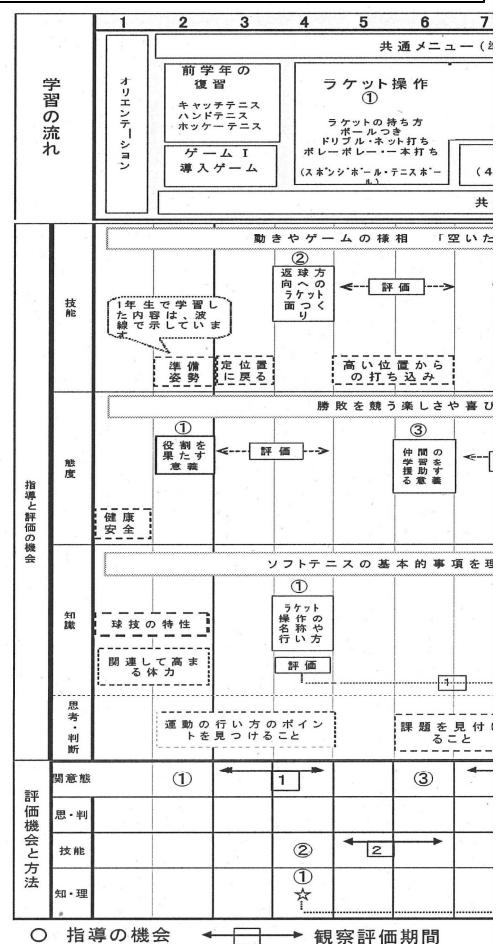
問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構成の工夫

- ◎ **学習内容が確実に定着できるように（2学年をひとまとまりにした、運動の取り上げ方を一層弾力化した）指導計画を作成する。**
- ・ 2年間を大きな単元のように捉え、1年間で実施するのか、2年間に分けて実施するのかを検討し、指導内容を確実に積み上げることができる指導計画とする。
- ※ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料
【小学校】P71（平成23年11月国立教育政策研究所）

授業づくりのポイント6
（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

- ◎ **1時間に評価する観点を1～2項目に絞り、単元全体で各観点をバランスよく評価できる評価計画を作成する。**
- ・ 右図のような単元構成図を作成し、評価機会の検討をする。
- 例：【E球技】ネット型
- ① 学習指導要領に示された指導内容をバランスよく配置する。
 - ② 「運動への関心・意欲・態度」及び「運動の技能」は、定着に時間を要し、観察評価が中心となるため、指導の機会と観察評価期間を設けて評価するように位置付ける。
 - ③ 「運動についての知識・理解」及び「運動についての思考・判断」は、その時間に評価するよう位置付ける。
- ※ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料
【中学校】P55（平成23年11月国立教育政策研究所）



教科 家庭

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 家庭生活を総合的にとらえる視点から指導計画を改善する。	○ 子どもの実態を的確にとらえ、題材で育成する資質や能力を明らかにして、内容相互の関連を図った題材の構成や配列を工夫する。 ○ 学年の発展性や中学校技術・家庭科（家庭分野）との関連を考慮し、ガイダンス的な学習内容を設定するとともに、2年間を見通した大まかな流れ（ストーリー性）のある指導計画に改善する。
指導の工夫	○ 日常の生活との関連を図り、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を充実する。 ○ 安全指導、安全管理の徹底と学習環境の整備を行う。	◎ 身近な生活の課題を見付け、解決する過程を大切にしたい問題解決的な学習や実践的・体験的な学習活動を工夫して、自分の成長を自覚できるようにする。 ○ 子どもの興味・関心や地域、家庭の実態に応じて、題材構成や使用する教材を工夫したり、課題を選択して追究できるようにしたりするなど、学習内容の選択の幅を広げる。 ○ 家庭生活への関心を高め、習得した知識や技能を実際の生活に活用することにより、実践する喜びや家族と関わる意味やよさについて実感できるようにする。 ○ 安全管理・安全指導に努めるとともに、学習環境の計画的な整備・充実に努める。
評価の充実	○ 個のよさを生かし、伸ばす指導と評価の一体化を図る。	○ その時間のねらいや学習活動に照らして、重点化を図った評価規準を設定する。 ◎ 様々な評価方法の中から、その場面における子どもの学習状況を的確に評価できる方法を選択するとともに、毎時間の学習状況を継続的に把握しながら指導に生かす。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **身近な生活の課題を見付け、解決する過程を大切にしたい問題解決的な学習や実践的・体験的な学習活動を工夫して、自分の成長を自覚できるようにする。**

・ 自ら課題を見だし、身に付けた知識や技能を活用し、自分や家族の生活を工夫する問題解決的な学習の場を設定する。

【例】【題材の構想に当たっての配慮点】

- ① 事前には、自分の生活を振り返らせ、生活に結び付いた課題意識を高める。
- ② 学習課題の設定では、家庭との連携を図り、自分自身の衣食住に関する実態調査から学習課題をつくる。
- ③ 課題解決では、生活を実感できるよう日常生活との関連を重視した実践的・体験的な学習を重視する。
- ④ 題材の終末では、家庭と連携し、実践する喜びを味わわせる。

授業づくりのポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **様々な評価方法の中から、その場面における子どもの学習状況を的確に評価できる方法を選択するとともに、毎時間の学習状況を継続的に把握しながら指導に生かす。**

・ 授業の各段階で、自分が考えたこと、見つけたこと、疑問に思ったこと、うまくいかなかったことやその原因などを継続的に振り返ることができるようにする。

【例】学習カードや実習カードの記入欄を工夫し、それぞれの活動の中で、自分の考えや気づき、グループでの話し合い、深まった考えなどを自分の言葉で記入できるようにする。

※ 言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【小学校版】
（平成22年12月 文部科学省）

教科		技術・家庭	
	指導の重点	努力事項	
指導計画の作成	○ 社会において自立的に生きる基礎を培う観点から指導計画を改善する。	○ 小・中学校及び高等学校の関連教科の関連性を考慮し、3学年間を見通した指導計画を作成する。 ○ 自分の生活を振り返ったり、今後の生活を展望したりしながら、課題意識をもって主体的によりよい生活を工夫できる能力と態度の育成を重視した指導計画に改善する。 ○ 子どもの発達段階を踏まえるなど学習の適時性を考慮し、家庭や社会とのつながりを重視した具体的な題材を工夫する。	
指導の工夫	○ 日常生活との関連を図り、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を充実する。 ○ 事故防止のため、安全管理と安全指導を徹底する。	○ 実践的・体験的な学習活動の内容を吟味し、基本的な概念の理解を深める。 ◎ 授業や題材の中でどのような資質・能力を育むのかを明確にし、子どもが学習や実際の生活において自ら課題を見だし、解決を図ることができるよう問題解決的な学習を充実させる。 ○ 校内や家庭で認め合う場を設定することにより、実践する喜びを味わうことができるようにする。 ○ 学習環境の整備に努めるとともに、実習室の使用規定、機器類の使用に関する安全規則及び情報活用に関する運用規定等を適切に定め、安全管理や衛生管理及び事故防止の徹底を図る。	
評価の充実	○ 学習指導に生きる評価を確実に行う。	○ 評価の内容や方法を改善し、具体的な題材ごとの指導計画と評価規準を作成する。 ◎ 自己評価や相互評価を学習過程に効果的に位置付け、子どものよい点や進歩の状況を積極的にとらえ、主体的な学習を促す評価となるようにする。	

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業のポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）

単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **授業や題材の中でどのような資質・能力を育むのかを明確にし、子どもが学習や実際の生活において自ら課題を見だし、解決を図ることができるよう問題解決的な学習を充実させる。**

- ・ 生徒に「なぜ」「どのようにすれば」という問いを意識させ、その解決のための「計画、実践、反省・評価」という一連の学習活動を意図的計画的に位置付ける。

授業のポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **自己評価や相互評価を学習過程に効果的に位置付け、子どものよい点や進歩の状況を積極的にとらえ、主体的な学習を促す評価となるようにする。**

- ・ 体験から感じ取ったことや気付いたことを自分の言葉でまとめ自己評価したり、整理・考察したことを説明し合って相互評価したりする。

例 技術分野では、製作図や回路図、フローチャート等を用いて考えさせ、考え出した解決策をめあてと照らして自己評価したり、友達と評価し合ったりできるようにする。

家庭分野では、調理のできばえやその理由を食品の調理性を基に考えまとめさせ、自己評価できるようにする。また、食事点検や住まいの安全点検などから、献立表や室内の安全マップなどの図表を用いて発表し合い、互いに評価し合えるようにする。

※ 言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校】P123～130
(平成23年11月 国立教育政策研究所)

教科 外国語（英語）

	指導の重点	努力事項
指導計画の工夫	○ 各学年の目標を明確にし、子どもや地域の実態等に応じた言語活動が行えるよう指導計画を改善する。	○ 単元のねらいや内容等に応じて、学習指導要領に示された20の言語活動を位置付け、単元間の関連を図りながら、年間を通して4技能を総合的に育成する。 ○ 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を踏まえて、各単元でどのような力を身に付けさせたいかを明確にして、指導内容や活動などの配列を見直す。
指導の工夫	○ コミュニケーション能力の基礎を育成するために、子ども主体の授業を展開する。	○ 子どもが英語を使って活動する時間と機会を増やすために、教師が英語で授業を進められるよう英語力の向上を図る。 ◎ 即興的な言語活動の過程で、「どうすればできるようになるか」子どもに気付かせたり、考えさせたりする場面を意図的に設定して、自ら学びに向かう態度・姿勢を育成する。
評価の充実	○ 目指す子どもの姿を明確にし、評価が指導につながるよう一体化を図る。	◎ 授業のねらいに即した視点で言語活動を振り返ることにより、身に付いた力や課題があるところに気付かせ、自律的学習者として主体的に学び続ける態度・姿勢を育成する。 ○ 筆記テストのみならず、パフォーマンス評価、活動の観察等、その場面における子どもの学習状況を的確に評価できる方法を選択し、それに基づく適切な支援を行う。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント2（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P5）

ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計

◎ **即興的な言語活動の過程で、「どうすればできるようになるか」子どもに気付かせたり、考えさせたりする場面を意図的に設定して、自ら学びに向かう態度・姿勢を育成する。**

- ・ どの技能に焦点を当てるのかを明確にした上で、ねらいに合った言語活動を設定する。
- ・ 言語活動のモデルやフォーマットを提示し、見通しをもたせる。
- ・ どのような復習や練習をすればよいか気付かせたり、考えさせたりする。

- 例① 自分たちの活動のつまずきの要因と改善策を考えさせる。
- ② 教師があるペアやグループの活動が改善するよう指導している場面を示すことにより、自分たちが改善すべき点に気付かせる。
- ③ 模範的なペアやグループの取組のよい点に気付かせる。
- ・ 言語活動における子どもの誤りについて、ねらいに合った訂正の在り方を想定しておく。

【誤り訂正の例】

Emi: What color do you like?
Shin: I'm like blue.
Ms. Saito: Oh, you like blue.
Shin: I'm.....



Shin, don't be afraid.
I like red. How about you?
Emi, ask him again.

I like blue.



What color do you like?

授業づくりのポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **授業のねらいに即した視点で言語活動を振り返ることにより、身に付いた力や課題があるところに気付かせ、自律的学習者として主体的に学び続ける態度・姿勢を育成する。**

- ・ あらかじめ振り返る視点を明確にしておく。

例 一人一人の目標を設定する。
ねらいを達成した具体的な姿を示しておく。

- ・ 子どもに「英語を使って何ができるようになったか」を実感させる。

例 ペアで話し合っ旅行したい場所を決めることができた。
習っていない語の意味を推測して文章の概要を読み取ることができた。

- ・ 次時以降の学習が充実するように家庭学習等でできることを考えさせる。

例 今日の活動で使った英文をもう少し音読すれば、自然な会話ができると思う。
○○さんが上手になったので、どんな学習をしたのか聞いてみたい。

※ 平成27年度「英語教育推進リーダー中央研修」DVD教材（平成28年7月 文部科学省）

外国語活動

1 学校や地域の実態に応じた指導計画の充実

- 小・中の連携や小学校同士の連携により、中学校外国語科への円滑な接続を図り、単元の位置付けや単元と単元との関連を踏まえた指導計画を作成する。
- ◎ **実施上の課題等の把握や指導計画作成は、全職員の共通理解のもと学校全体で取り組むとともに校内研修を充実させる。**

2 外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

- 児童の興味・関心に応じて、他教科等で学習した内容を取り入れるなど、知的好奇心を喚起する教材を活用し、言語や文化について体験的に理解できるようにする。
- デジタル教材や音楽を活用して、内容や活動を工夫し、児童が自ら進んで聞いたり話したりして音声や表現に慣れ親しむようにする。
- ネイティブ・スピーカーや外国生活の経験者等の協力を得て、HRTや児童とのインタラクティブを通して、言葉のもつ面白さや豊かさに気付かせ、異文化への興味・関心を高める。

3 「目標－指導(活動)－評価」の一体化

- 単元や授業のねらいに沿って、授業の中で求める児童の具体的な姿を明らかにして、評価規準とともに児童の学習状況を適切にとらえる評価の場面、方法を設定する。
- ◎ **自己評価や相互評価を活用し、児童の努力や意欲の向上等の変容を的確に見取る評価を行い、評価の結果に基づき適切な支援を行うなど指導の改善に生かす。**

※は参考文献等

外国語活動の授業の充実のために

授業づくりのポイント1 (『【参考資料】確かな学力の向上のために』P3)

単元のねらいと子どもの実態等を踏まえた単元構想の工夫

- ◎ **実施上の課題等の把握や指導計画作成は、全職員の共通理解のもと学校全体で取り組むとともに校内研修を充実させる。**

- ・ 各種研修会やDVD教材を参考にして、単元のねらいに合ったALTとの協力の在り方やICTの活用の仕方を見直し、指導計画に位置付ける。

※ 平成27年度「英語教育推進リーダー中央研修」DVD教材(平成28年7月 文部科学省)

- ・ 活動を重ねるごとに子どものコミュニケーションへの意欲が高まっていく姿を想定し、チャンツ、ゲームなどの各活動が単元のねらいにつながるように指導計画に位置付ける。
- ・ 教師自身の英語力向上に努め、教室英語の使用を段階的・計画的に増やし、子どもが英語に触れる機会を確保していく。

【「ほめる」「はげます」教室英語の例】

You did a good job. (よく頑張りました。)

Fantastic. (すばらしい。) Close. (おいしい。)

That's right. (その通りです。)

Clear voice. (はっきりした声です。) Good luck. (頑張って。)

You can say it in Japanese. (日本語で言っていていいですよ。)

Excellent!



※ Hi, friends! 指導書(文部科学省)

授業づくりのポイント6 (『【参考資料】確かな学力の向上のために』P15)

学習内容を「振り返る活動」の充実

- ◎ **自己評価や相互評価を活用し、児童の努力や意欲の向上等の変容を的確に見取る評価を行い、評価の結果に基づき適切な支援を行うなど指導の改善に生かす。**

- ・ モデルを示したり、教室に掲示したりして、子どもが活動の目標を十分に理解して活動に取り組み、目標が達成できたかどうかを実感できるようにする。
- ・ 特に言語活動への参加意欲について、その変容を子ども同士で認め合う場を設定するとともに、教師が的確に見取り、称賛の声かけをする。
- ・ 「もっとやってみたいこと」「もっと知りたいこと」を引き出し、次の単元や中学校外国語科の学習への意欲を喚起する。

道 徳

1 重点目標を明確にした全体計画と各教科等との関連を考慮した指導計画の改善

- 道徳教育の重点目標や各学年の指導の重点を明確にした全体計画を作成する。
- 各教科等における道徳教育に関わる全体計画の別葉を作成し、活用を図る。
- 年間指導計画は、各時間の指導の概要が分かるように工夫し、学級の指導計画は、子どもの実態をもとに精選した内容となるように工夫する。

2 実効ある指導体制づくりと道徳の時間の指導方法の工夫

- 保護者や地域の人々の参加や協力を得るとともに、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を確立し、学校全体の授業力を高めるようにする。
- ◎ **問題解決的な学習や体験的な活動など、多様な指導方法の工夫を通して、子どもの心に響く多様な授業展開を工夫する。**
- 魅力的な資料や教具の開発を行うとともに、「ふくしま道徳教育資料集」の積極的かつ実態に応じた柔軟な活用を図る。
- 評価に当たってはよい点や成長の状況などを積極的に認め、勇気づけるとともに、指導計画や指導方法の改善に生かす。

3 開かれた道徳教育の推進

- 「道徳の時間」の授業の公開等を積極的に実施し、学校間や異校種間の連携を強化する。
- 保護者や地域住民の理解と協力を得ながら、双方向の連携の工夫をする。

※は参考資料等

道徳の時間の充実のために

道徳の時間の指導方法の工夫

- ◎ **問題解決的な学習や体験的な活動など、多様な指導方法の工夫を通して、子どもの心に響く多様な授業展開を工夫する。**

【問題解決的な学習のねらいとは？】

道徳の時間における問題解決的な学習とは、子ども一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

【問題解決的な学習の指導上の留意点は？】

- ・ 多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
- ・ 上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
- ・ 議論し、探究するプロセスが重視されているか。

【問題解決的な道徳の時間を構想するには？】（授業展開を構想する上での一例）

①道徳的価値の想起

- ・ 個人的な経験や具体的な事例から道徳的価値を考える。

【教師の主な発問】

「ここでは何が問題になっていますか」

「何と何で迷っていますか」

②道徳的な問題の状況の分析

- ・ 資料を読んで、道徳的な問題の状況を分析する。

③複数の解決策の構想

- ・ 問題場面に対し、様々な解決策を構想する。

「主人公はどうしたらよいただろう」

「自分ならどうしただろう」

④シミュレーション

- ・ 考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。

⑤まとめ

- ・ 今後の生活でどのように生かせるかを問い、価値の内面化から道徳的実践へと促す。

※ 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について【別紙1】

（平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議より）

特別活動

1 自校の教育課題解決を目指した指導計画の改善

- 学校や地域社会の実態、子どもの発達段階を踏まえ、各活動・学校行事を通して育てたい態度や能力を明確にした創意ある指導計画を作成する。

2 自主的、実践的な活動を充実させる指導内容の重点化と指導方法の改善

- 互いのよさや可能性を認め合う活動を積極的に取り入れ、一人一人が自己肯定感・自己有用感をもてるよう、全教師の指導体制を整えて指導方法の改善を図る。

【学級活動】

- ◎ **話し合い活動を充実させ、(1)では学級としての意見をまとめる集団決定、(2)及び中学校(3)では自己の問題の解決方法を決める自己決定ができるようにする。**

【児童会・生徒会活動】

- 協力的な指導体制の充実を図り、異年齢集団の特質を生かし、自発的、自治的な活動を助長する指導・援助やリーダーシップの育成に努める。

【クラブ活動(小)】

- 子どもの興味・関心を十分に踏まえ、学校、地域の実態を考慮しつつ、自発的、自治的に企画、運営できるよう適切な指導を行う。

【学校行事】

- 行事のねらいや特質に応じて精選化を図るとともに、多様な人々との交流体験や文化的な体験(小)、職場体験(中)等を重視し、自主的・実践的な活動が展開できるように工夫する。

3 特別活動の特質を踏まえた評価の工夫

- ◎ **活動の過程で一人一人を見取り、よさや可能性を積極的に認めるとともに、多様な振り返る活動により集団や自己の変容に気付かせ、子どもの自信や次の活動への意欲を高める。**

※は参考文献等

特別活動の充実のために

「話し合い活動」の充実

- ◎ **話し合い活動を充実させ、(1)では学級としての意見をまとめる集団決定、(2)及び中学校(3)では自己の問題の解決方法を決める自己決定ができるようにする。**

- ・ 学級活動(1)では、学級活動委員(計画委員)の司会、記録等の役割分担、活動の計画・立案等により自分たちの活動であることへの自覚と責任をもたせるとともに、アンケートや事前調査等により子ども一人一人の問題意識や改善意欲を高める。
- ・ 学級活動(2)及び中学校(3)の題材について、子どもが切実感をもって話し合い、具体的な改善策を伴う自己決定ができるように資料を提示する。

- 【例】
- * ゲストティーチャーからの心に響く話
 - * 学級担任や学級活動委員会(計画委員会)による実態調査等の結果

- ・ 議題や題材について、事前に子どもが書いた考えに、教師が朱書きを入れる。

【期待できる効果】

- 【例】
- * 子どもが考えをまとめ、発言することへの自信がもてる。
 - * 司会役への実態を踏まえた助言により話し合いが円滑に進む。

※ 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)(平成26年7月 国立教育政策研究所)

※ 学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)(平成28年3月 国立教育政策研究所)

- ・ 「提案理由や活動テーマを大切にすること」や「話し合いの形態を工夫すること」「安易に多数決で決めないこと」など、板書や掲示物を利用して、子ども一人一人が話し合いの仕方やルールを理解し、発言しやすい状況や雰囲気をつくる。



「振り返る活動」の充実

- ◎ **活動の過程で一人一人を見取り、よさや可能性を積極的に認めるとともに、多様な振り返る活動により集団や自己の変容に気付かせ、子どもの自信や次の活動への意欲を高める。**

- ・ 体験発表会、新聞による紙上発表、礼状作成など、多様な方法で活動を振り返り、活動後の変容に気付かせるとともに、何が変容につながったのかについて考えさせたり、話し合わせたりする。
- ・ 活動の目的を明確にした上で実施し、育てたい資質や能力に即した視点で振り返らせ、教師が積極的によさを認め、子ども同士でも認め合う場を設定する。

総合的な学習の時間

1 地域や学校、子どもの実態等に応じた特色ある指導計画の作成

- 全体計画及び年間指導計画は、カリキュラムマネジメントの視点から、各学校における教科横断的な目標、育みたい資質や能力、学習内容、学習活動や評価等を明確にして地域や子どもの実態に即して作成するとともに、自己点検・自己評価を行い改善を図る。
- ふるさとにかかわる単元を開発したり、外部の教育資源を積極的に取り入れたりしながら、多様で豊かな体験活動を各学校の実態に応じて指導計画に位置付ける。

2 創意工夫を生かした探究的な学習活動の展開

- 探究的な学習が発展的に繰り返し展開できるように、「課題の設定」を重視する。その際、子どもの発想を大切にするとともに、学習対象とのかかわり方や出会わせ方を工夫するなど、教師の働きかけを工夫する。
- ◎ **問題の解決や探究的な学習の過程においては、協同的に学ぶことの3つの価値を踏まえて、他者と協同して課題を解決する学習活動を設定する。**
＜協同的に学ぶことの3つの価値＞
 - ① 多様な情報の収集につながる。
 - ② 異なる視点から検討できる。
 - ③ 個人の学習の質を高め、同時に集団の質も高める。

3 子どもの主体的な学習を支える評価の工夫

- ◎ **子どもが自己の高まりや成長を実感したり、今まで気付かなかった自分のよさや問題点に気付いたりできる自己評価や相互評価等の方法を工夫する。**

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

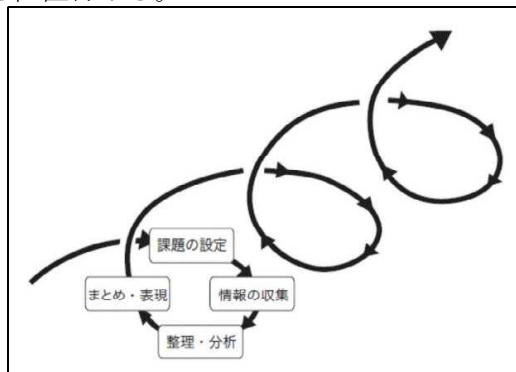
思考の共有と吟味を促す学び合いの充実

- ◎ **問題の解決や探究的な学習の過程においては、協同的に学ぶことの3つの価値を踏まえて、他者と協同して課題を解決する学習活動を設定する。**

- ・ 探究的な学習のプロセスとして学び合いの活動を位置付ける。

- 例 ① 情報収集、情報の整理・分析により自己の考えをもたせる。
- ② 学習形態を工夫して、学び合いの機会を設定する。ここでは、情報の対比を通して結論の内容を深められるようにする。
- ③ 根拠を明確にして説得力のある説明ができるようにする。
- ④ 新たな課題を設定し、次の探究につなげる。

教師は、「整理・分析」「まとめ・表現」を重視し、次の「課題の設定」に発展させる。



※ 学習指導要領解説 総合的な学習の時間編【小・中学校】P12～17（平成20年 文部科学省）

同 【小学校】P83～93（平成20年 文部科学省）

同 【中学校】P81～91（平成28年 文部科学省）

※ 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開【小学校編・中学校編】P17～47

（平成22年 文部科学省）

「振り返り活動」の充実

- ◎ **子どもが自己の高まりや成長を実感したり、今まで気付かなかった自分のよさや問題点に気付いたりできる自己評価や相互評価等の方法を工夫する。**

- ・ 「まとめ・表現」の段階において、伝えたり、考えをまとめたりする場を設定する。

- 例 振り返りカード、地域住民への報告、プレゼンテーション、パンフレットなどによる表現する場を設け、学習前と学習後の変化を振り返らせる。その際、知識、技能、経験、思考など、表現する内容の観点を示して、多様な面から自己の変容を自覚できるようにする。